2023 年度（令和 5 年度）を振り返って

麦の穂乳幼児ホームかがやき

1．「乳幼児総合支援センター」構想を実現する取り組みを強化します。

乳幼児総合支援センターの構想には、大きく 6 項目の機能を掲げています。予防的支援機能、一時保護機能、専門養育機能、親子関係構築支援機能、アフターケア機能、センター拠点機能です。今年度は特に、予防的支援機能の中の産前産後母子支援事業の取り組みを強化するために、近隣の中津川市や恵那市との連携・協働が増加している傾向にあります。また、親子関係構築支援機能では、入所児童と家族の再統合を目指して、きめ細やかな面会交流やアセスメントを実施してきました。

従来の乳児院や児童養護施設の持つ養育機能に加え、親子分離をする前の在宅支援に重きを置く方向に制度・施策が変化しており、働く職員一人ひとりの意識改革に向けた取り組みを充実させる必要があります。今年度は『運営会議』の取り組みを重視し、養育・看護・心理・母子支援・地域支援・家庭支援・里親支援・調理・防災安全の各部門の責任者が参集し、今後のかがやき全体の方向性・方針を考える機会を大切にしてきました。まだまだ課題は山積みの状況ですが、新たに開拓する姿勢の重要性を強く感じています。

2．子ども一人ひとりの適切な養育環境の永続的保障をめざし取り組みを強化します。

今年度は新たに措置入所する子どもが減少し、15 名定員のところ 12 名の現員での生活期間が長くありました。幼稚園に就園している子どもが 6 名となり、子ども一人ひとりをじっくり見ることができた 1 年であったと感じています。

隣接する麦の穂学園の入所児童の中で、かがやきから措置変更した子どもたちのライフストーリワークの取り組み大切にしようと計画を立て、年間を通して取り組む中で、改めて職員が長く働くことの重要性を強く感じています。乳児院で生活する期間よりも児童養護施設で生活する期間が長くなり、担当する職員の交代を何度か経験する中で、「子ども一人ひとりの養育環境を永続的に保障する。」という理想を実現するために何が大切なのかを乳児院も児童養護施設も支援センターも共同で考えていかなければならないと感じています。

3．人材確保・人材育成・職員の定着に向けた取り組みを重視します。

法人内の主任的立場である職員が協力し、保育士の養成校との連携や職場の説明会を実施し、人材確保に年間を通して取り組んできました。また、ラ・サール OB の方々の協力のおかげもあり、ホームページを見て、当法人に興味を持っての応募や見学申し込みもありました。

かがやきにおいては新任職員一人ひとりに現職の先輩職員をつけ、日々の業務の振り返りを定期的に実施し、具体的なアドバイスや新任職員の困り感に寄り添う姿勢を大切にしています。人材確保・人材育成・そして職員の定着への取り組みは、今働いている職員が、どれだけ自分自身の取り組みにやりがいを感じ、チームの一員として大切にされていると感じられるかが肝要だと思います。引き続き魅力ある職場づくりに尽力し続けたいです。